

# 北海道への核持ち込みは許さない！ 11・23 幌延デー北海道集会

自治労日高地方本部青年部

# だっしゅ！



学習会の様子（天塩町社会福祉会館）

11・23 幌延デーに  
本田書記長が参加し  
てきましたので、こ  
の場を借りて報告さ  
せていただきます。  
まず午前中は天塩

町社会福祉会館で「11・23  
幌延デー北海道青年女性学  
習会」が開かれ、福島県本  
部青年部副部長の野内一昭  
さんから「自治体職場から  
見た福島の現状」と題して

講演を受けました。

野内副部長からは、未だ  
放射能汚染によって14万人  
が避難しており、風評被  
害・差別が依然として続い  
ていること、被災自治体で  
働く仲間からは『3・11以  
降、住民のために一生懸命  
やってきたのに、待遇に変  
わりがない現状にやりきれ  
ない想いがある』、『震災  
直後は食べ物が無く、家にも  
戻れず不安な中仕事をし  
ていた。そんななか退職金  
削減や7・8%賃金削減の  
話を聞くと悔しい気持ちに  
なる』、『住民から役所は  
何もしてくれないと苦情を  
言われる。賃金も下がり辞  
めたい』といった福島の実  
態が述べられました。  
最後に、「福島の事故は  
他人事ではない。自分には

関係ない・絶対起こらない  
根拠なんてない。福島の実  
情を踏まえた上で、改めて  
反原発について考えてほし  
い。」と述べておりました。  
午後からは、会場を幌延  
町に移し、11・23 幌延デー  
北海道集会に参加してきま  
した。

幌延町には「幌延深地層  
研究センター」という、日  
本原子力研究開発機構が管  
理運営する地下350メー  
トル以上の深さへの放射性  
廃棄物の地層処分に関する  
研究を行う施設があり、こ  
の施設には放射性廃棄物が  
持ち込まれることはなく、  
研究終了後は埋め戻し処分  
場とすることもないとする  
協定が締結されているもの  
の、なし崩し的に処分地と  
されることが危惧されてい  
ます。

福島の事故から2年8ヶ  
月が経過し、いまだに収束  
の見通しが立たないなか、  
原発再稼働や新増設、海外  
輸出など政府は原発推進の  
歩みを進めています。

福島の事故を風化させな  
い、北海道に核のゴミを持



デモ行進の様子（幌延市街）

ち込ませないためにも、反  
核・平和について、いま一  
度学習していきましょう。

**なぜ幌延デーは11月23日？**

事の発端は1985年11  
月23日、「動力炉・核燃料  
開発事業団（現・日本原子  
力研究開発機構）」が、幌  
延住民の反対を押し切り地  
上踏査を強行したことを受  
けて、翌年11月23日から  
「幌延に核のゴミはいらな  
い」と街宣を行っており、  
本年度27年目を迎えました。